

箱根節分祭、節分前夜祭「冬景気花火大会」

2月3日に祝われる節分は、伝統的な日本の暦の上で冬の最後の日です。この日はまた清めの日でもあり、清めは豆まきの儀式を通じて行われます。直訳で「豆を投げる」という意味のこの行事は、邪を祓う目的で行われます。人々は「鬼は外！福は内！」と叫びながら、扉や窓を開けて、邪悪な霊を撥ねつける信じられている固い乾燥大豆を投げつけます。箱根では節分のお祭り騒ぎは、翌日のお祭りに向けたハイライトとなる20分間の花火が芦ノ湖を照らす2月2日の夜に始まります。2月3日には、箱根神社では悪霊を祓うことを意図した一連の儀式を開催します。クライマックスは午後早めにやってきます。宮司の一人がコスチュームに着替え、地域のウォータースポーツの伝統にちなみ水上スキーを履き、猛スピードの鬼となって湖面を走るところを目がけて観覧客が豆を投げつけます。もしこのスペクタクルを見てお腹が空いて、数粒の豆よりもう少し何か食べたくなったら、ワカサギのフライやお酒が無料でふるまわれている神社に戻りましょう。